

芭蕉ちゃん
ありがとうね

店番を
任されたから
かまわない

しかしなぜ？
ホットミルクを
二杯飲む？

もう夜も遅いから
芭蕉ちゃんも
ぐっすり寝れるように
一緒に飲もうかなって

おごりつてことでさ
僕はこっち側いただくね

サラッ

ゴッ

成程な
ごちそうになる
ありがとう

ぐっすり眠っている。

松尾芭蕉。
彼女のことは一目見た時から
劣情を感じていた。

店に通い詰めていくうちに
それは抑えきれないもの
になっていった。

…周到に準備を進め
薬を盛った。



彼女のスカートの中に手を入れ
下着に指をかける。
ゆっくりおろしていく。

しゅるる...

スカートの中の暖かさ。
下着の柔らかさ。
幼さの残る体臭。
興奮を覚える。

脱がせた彼女の下着を確認する。
年頃の可愛い下着だ。

フワッ

以前盗み撮ったものと
同じ下着。

ひっくり返しクロッチの
匂いを嗅ぐ。
彼女の小水の匂いが
少し香る。

あとでこの下着は
買ってきた同じ物と
交換してあげよう。

ズ

ズ

ズ

スカートをまくり
足をつかんで股座を開く。

ぴっちり閉じられた
彼女の可愛いおまんこ。



指で開く。

可愛い膜がしっかり存在している。

これからこの閉じられたおまんこをチンポでゆっくりこじ開けるのだ。

ズ
ズ
ズ

ク

パッ

くに...

△

用意していた鎮痛作用のある軟膏を塗る。

これで意識のない彼女にもすこし楽にチンポを受け入れてもらえるだろう。

自分のチンポにも潤滑剤を塗り準備を終える。

トク

ぬり
ぬり



ぴたりと彼女のおまんこに
狙いを定める。

ピトっ

ほぐすように
少しづつ体重をかけて
彼女に侵入する。



少し力をこめると
亀頭が入った。
同時にチンポから感じる
ぷつぷつとした感覚。

ゆっくりと未使用の
おまんこを
使用していく。

74
74

軟膏を塗っても
意識がなくても
少し痛みを感じて
いる様子だ。

んー！

トッ

かまわず狭いおまんこを
突き広げていく。

ぬちち

彼女のおまんこに
力いっぱい愛撫されているようで
快感で背筋に鳥肌が立つ。



彼女の赤ちゃんが作れる場所まで
チンポが到達する。

幼さの残る体でも
しっかり男性を受け入れて
くれる。
こちらにも応えないと。

ピストンを始める。
たっぷり潤滑剤を塗っても
まだきつさを感じる。

やはり体への負担があるのか
彼女の息は苦しそうに
早くなる。

その様子がかわいくて
腰を動かすのが
激しくなってしまう。

うっ……
うう……？

彼女の目がうっすらと
開き虚空を見る。

あう……

ピストンの負担で
半覚醒状態になったのだろう。
想定していたので慌てなかった。

う……

？

あう……？

ぬちゅ
ちゅ
ちゅ

ぬちゅ
ちゅ
ちゅ

ぬちゅ
ちゅ
ちゅ

何度か自分でも薬を試した。

強い衝撃を受けて一時的に
目を覚ましても
体は動かせないし
朦朧として意識はない。

酩酊したときのよう
に起きてもその時のことは
覚えてない。

服用した自身を
録画したり何度も
検証したから。

自分よりはるかに体重が軽い
彼女ならより効いているだろう。

激しい睡魔と
性交の感覚のせめぎあい
で朦朧とした彼女の
体をたっぷり味わう。

彼女の無抵抗なおまんこに
向けて精液がのぼってきた。
出る・・・射精る・・・っ!



おおっ…

受け止めて…
俺の赤ちゃんのおまんこ…

おお…っ
芭蕉ちゃんのおまんこに
精子出る…っ

ドクドク

ゴクゴク

ドクドク

あ？
う…？

？

？

？

あ

あ

？

？

？

？

？

ドクドク

彼女からチンポを引き抜く。
大量に出した精液が零れ落ちる。

その様子を見て
征服欲が満たされて
いくと同時に再び沸き上がる
のを感じる。

ブポ♡

ずるん♡

芭蕉ちゃんは……。
また寝てしまった

太ももをさすつたり
何度かキスしても
もう全く起きる様子がない。
完全に薬がまわったのだろう。



彼女の胸をさする。
可愛いふくらみ。
着物の上からでも
わかる柔さ。

んっ……

もみもみ♡

うっ……

時間はたっぷりある。
彼女の隠れた部分は
全部網膜に焼き付けたい。

もみもみ♡



着物をはだけさせると
二つのふくらみが目に入る。
桃色の乳首。

自分の一番気持ちいい部分で
それに触れたかった。

亀頭を彼女の乳首で
押しつぶすようにこねくる。

ふいにカレ

くじゅくじゅ
くにゅ

うん……

彼女の寝苦しそうな
顔と相まって
精液はすぐに
わきあがってきた。





くうっ!

思わず無垢な寝顔に向けて
射精する。

クー...

クワッ
クワッ

クワッ
クワッ



おおっ・・・おう・・・っ

精液は彼女の顔を汚していく。

彼女の可愛い箇所も
エッチな箇所も
精液でマーキングしていく。

IAA

とっ、とっ、とっ、とっ、

とっ、とっ、とっ、とっ、

まだまだ出る精液を
彼女の胸に塗り込む。

くっ...

ん...

びびっ

びびっ

びびっ

寝ていても
精液の匂いは覚えて
くれるだろうか。
たっぷりと薄汚い欲望を
彼女に吐き出し続ける。

精液で汚れた彼女を
見ながらまた彼女を犯す。

一生分の精液を
ここで吐き出したい。

さっきたつぷりほぐして
あげた幼い膣に
また挿入していく。

ぬぬぬ
ぬぬぬ
ぬぬぬ

少し抵抗感が薄くなり
こなれた感覚を覚える。

芭蕉ちゃんのおまんこが
俺の形になってきたのかな。
可愛いね。



もう多少乱暴に
腰を動かしても
全く起きる気配はない。

身勝手な性欲を
彼女に押し付けていく。

気持ちいい。
このままずっと
俺の精液を受け止める
ティッシュペーパーに
なってほしい。
ううっ。出る……っ！





子宮にダメ押しのようにさらに精液を注ぎ込む。

ううっ！

先ほどは彼女の下着には生理用品などついていなかったが彼女の月経周期はどうなっているのだろうか。初潮は来ているのだろうか。

このまま精子漬けにして孕ませたい。



まだ夜が明けるには早い。

もうすこし
一緒に楽しもうね
芭蕉ちゃん。

ポッポッ

ふあ〜

昨晩は
部屋につくなり
ぐっすりだ

ん？

？

部屋の中
ほのかに香る
栗の花……？

ちゅぷん♡



